

「わたしの目には、あなたは高価で尊い」
(イザヤ書 43章4節)

今朝は、クリスマス記念礼拝です。

クリスマスは、なぜこのように世界中の人々に祝われるのでしょうか。この数年日本ではイルミネーション・ブームというか、都市や町、家々などどこもかしこもクリスマス・イルミネーションがいっぱいです。クリスマス・ツリー、サンタクロース、クリスマス・ケーキ、プレゼントなど、クリスマスは大人にも子どもにもメルヘンチックな夢があります。

でも、クリスマスが人々の心を引きつけるのは、それだけではないような気がします。それだけでは、2千年もの間、しかも世界中の人々の心をつなぎ止めることはできない。クリスマスには人々の心をつかむ何かがある。そう思うのです。それは何でしょう。それは、「愛のメッセージ」です。クリスマスには「愛」があるのです。人々はそれを感じるのだと思います。

実は、聖書は何千年も前から愛を説いています。聖書のテーマは愛なのです。聖書の説く愛は、自己中心的でない、人のために犠牲になる愛です。これは神の愛です。聖書は、神は愛なのだを教えています。そして神は人を愛されました。そして、聖書は、人間がお互いの間に持つべきものが愛だと教えています。夫婦、親子、兄弟、隣人そして「あなたの敵をも愛しなさい」と聖書は教えています。

さて、まず聖書のこのことばに耳を傾けてください。「わたしの目には、あなたは高価で尊い」。これは何と素敵なことばではありませんか。このことばは、今から2千7百年ほど前に、天地万物の造り主である神様が、預言者イザヤによって人々に語られたことばです。こんなことばをかけられたら感激しませんか。でも、神様は今私たちにこのことばを語っておられるのです。

1. わたしの目には、あなたは高価で尊い。

(1) わたしの目には

さて、自分がどのように思われているのか。また、自分は自分のことをどう思っているのか。これは、時にはその人の生き方を左右する大きな問題になります。20年ほど前に、セルフイメージとかセルフエスティームということが盛んに言われました。自分に自信を持ちなさいということです。

自分をどのような者として思うかについて、3つの目というか、見方があります。

一つは、自分の目です。

イエス・キリストを前にしてペテロのは、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」

他人の目もあります。

イエスがナザレ出身と聞いたナタナエルという人は「ナザレから何の良いものが出るだろう。」

さらに、世間の目もあるでしょう。

特に、私たちは世間体を気にします。「人様に迷惑をかけない」ように生きることを小さい時から教えられます。

目の不自由な人を見た弟子たちは「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」

私たちは、「自分の目」「人の目」「世間の目」で自分を判断しがちで

す。その結果、私たちは自分にごっかりし、自信を失います。
しかし、もう一つの目があります。それは、神様の目です。

「神様は、私をどう見ておられるのか」です。

神の目

ダビデの例 長男エリアブについて「彼の容貌や、彼の高さを見てはならない。わたしは、彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」

(2) あなたは高価で尊い。

神様の目から見ると、「あなたは高価で尊い」のです。それは、神様があなたを造られたからです。

詩篇139篇「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが書き記されました」

神のかたちに

管理する能力 愛する能力 神を知り、神に仕える能力 義・聖

山本有三のことばに、次のようなものがあります。

たった一人しかない自分をたった一度しかない一生を本当に生かせなかったら人間に生まれてきたかいがないじゃないか。

マザー・テレサ

今や、世界で最も恐ろしい病気は、癌でもなければ、脳卒中でもなく、「自分は生きていても、生きていなくても同じだ」と考える精神的孤独、精神的貧しさという病である。

2. わたしはあなたを愛している。

(1) 神に造られたから

神を知らなくても

赤ちゃんは、生まれたとき、お父さんもお母さんも知りません。でも、お父さんやお母さんから愛されています。

神に背いても

神に背き続けたイスラエル

「わたしは永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた」(イザヤ31:3)

(2) 神の救いのご計画

約 神様は、人々を救うために遠大なご計画をお立てになりました。それは、旧約聖書と新約聖書に書かれています。

* アブラハムの選び(神の民の選び)

* モーセによる十戒と礼拝の準備

* 預言者によるメシヤ(救い主出現)の預言

* 神の御子イエス・キリストの誕生

イエス・キリストは、神を示されました。

「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」(ヨハネ1:18)

イエス・キリストは、私たちのために救いを完成

人々の罪のために十字架にかかり、罪を赦す。

「自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」(1^oペテ2:24)

復活し、天に帰り、救い主として、人々を招く。

「キリストは永遠に存在されるのであって、変わることはない祭司の務めを持っておられます。したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです」(ブル7:25)

このキリストの愛の証となる話しをしましょう。

5人の宣教師の殉教

1956年に南米アマゾン河の源流地に住むアウカ族によってアメリカの5人の宣教師が殺されるという事件がありました。私がクリスチャンになって3年目の時だったので、今でもその事件ことをはっきり覚えています。ジム・エリオット、ピート・フレミング、エド・マッカーリー、ネイト・セイント、ラジャー・ユードリアンの5人の若い宣教師たちは結婚しており、9人の子どもたちがいました。

彼らはセスナ機でアウカの居留地の近くに降り、彼らの現れるのを待ちました。しかし、彼らは全員が槍で殺されているのが発見されたのです。

以後、アウカへの宣教は、全く閉ざされたかのように思えました。しかし、神様は全く不思議な方法で道を開いてくださいました。ダユマというアウカ族の女性が村を脱出し、ネイト・セイントの姉レイチェルと出会ったのです。そしてクリスチャンになり、アウカ語の聖書翻訳に中心的な働きをしました。

そしてダユマの手引きで、レイチェルとジム・エリオットの妻エリザベツとその若い娘がアウカ村に入りました。彼らは奇跡的に危害に遭うことなく、クリスチャンを増やし、村々に教会を建てました。牧師になる者まで起こされました。エリザベツとその娘は、2年でその地を離れましたが、レイチェルは生涯、村に残り、ついにアウカ語の新約聖書を完成させました。クリスチャンになったアウカ族の人々は、それから簡単に人を殺さなくなりました。

私たちはみな、神様の目から見たら、高価で尊いのです。神様は、はっきりそうおっしゃっておられます。そして、あなたを愛していると。

クリスマスに人々の心が暖かいものを感じるのは、そこに神様の愛のメッセージがあるからです。イエス様がお生まれになったということは、神様のご愛を私たちははっきりと見ることが出来るようになったという事です。

私たちは、今朝もう一度、このメッセージから学ぼうではありませんか。ここにこそ、私たちの歩むべき道が示されています。

神様は、こう語っておられます。

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないことがあろうか。たどい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない」(伊ヤ49:15)

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

(ヨハ3:16)

「**私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます**」(ヨハ3:16)

「**私たちが神をではなく、神が私たちを愛し、私たちのためになだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです**」(ヨハ3:16)

イエス・キリストは、神の御子であられました。しかし、神は人間を救うために神の御子を人間の世界にお遣わしになりました。御子は、2000年前にユダヤのベツレヘムにおとめマリヤからお生まれになりました。そして、私たちの罪の身代わりとなって十字架でしんで下さったのです。神は、死んだキリストを三日目に甦らせ、天におかえしになりました。キリストはいま永遠に生きる救い主として、神と私たちの間をとしなして下さるのです。

最後に、瞬きの詩人と呼ばれた水野源三さんのことばを読みます。水野さんは、9歳の時に赤痢にかかり、高熱の後遺症のためからだと言葉の自由を奪われました。12歳の時に初めて聖書に触れ、13歳で洗礼を受けてクリスチャンになりました。お母さんの助けで50音図を瞬きで指定する方法で、たくさんの詩を書きました。その中から二つの詩を紹介します。

一番すばらしいもの

夏で一番すばらしいのは青空 真っ白な入道雲が
いきおいよくもりあがる時
一日で一番すばらしいのは 夜明けの静けさに
小とりがなきだす時
わが生涯で一番すばらしいのは
救い主なるイエス様に 出会った時

もしも私が苦しまなかつたら

もしも私が苦しまなかつたら
神様の愛を知らなかった
もしも多くの兄弟姉妹が苦しまなかつたら
神様の愛は伝えられなかった
もしも主なるイエス様が苦しまなかつたら
神様の愛はあらわれなかった

神様は、今朝あなたが神様のもとに帰ってくるのを待っておられます。今まで、神様から離れていたかもしれませぬ。しかし、神様は、あなたをお忘れになつてはおりませぬ。神様は、「あなたは、わたしの目には高価で尊い。わたしはあなたを愛している」とおっしゃっておられるのです。

祈りましょう。もし、今朝、神様のもとに帰りたいたいと思うなら、「神様、あなたから離れていた私をおゆるしてください。イエス様の十字架のゆえに私の罪をきよめてください。私はあなたのみもとに帰りたいたいです。私の目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛していると語ってくださって感謝します。」と今、祈りましょう。イエス様は、「わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てませぬ」とおっしゃっておられます。